Blanche espere -白の希望-

柴健

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｂｌａｎｃｈｅ　ｅｓｐｅｒｅ　－白の希望－

【Ｎコード】
Ｎ２７００ＢＡ

【作者名】
柴健

【あらすじ】
病弱な少年は、若くして病によりこの世を去る。
しかし、少年は神によって新しい世界で生まれ変わる。
少年が好きだったキャラクターがいる世界で。
しかし、少年はこの世界にある謎の野望に立ち向かうこととなる。
?この作品は作者の知っている作品のクロスオーバー作品です。
その辺は温かい目で見てもらえるとうれしいです。

プロローグ

少年は泣いていた。

白楽善太（はくらくぜんた）は泣いていた。

この世から離れていく悲しさから。

病室のベッドの上で、家族に見守られながら。

彼は生まれてからずっとベッドの上でずっと過ごしてきた。

治る見込みのない病気にかかってしまったせいで・・・

そして少年は短い人生を終えてこの世を去っていく・・・

悔いを残して死んでいく・・・

短くしか生きることのできなかった自分に悔いを残して・・・

そんな彼に声をかける者がいた。

死んでしまった彼に向かって声をかける者がいた。

「善太、貴方の人生は終わったのではなく、始まりを告げます。」

そう、話しかけてくれたのは神様のような人だった。

と言っても、死んでしまったのだから神様だろう。

「人生を知らないで死んでしまったあなたに、一つだけ願いをかなえてあげましょう。」

そして、少年は口をあけ、言の葉を紡ぐ。

狭い世界で学んだ、言の葉を紡ぐ。

「だったら、アニメキャラクターに会える世界に行ってみたいです。

」

少年は静かに言った。

少し、恥ずかしそうに言った。

「僕の狭い人生ではアニメとかしかなかったので。」

少年はどこか悲しげに言う。

少年は自嘲気味に言う。

「生き返らせて・・・とは言わないんですね。」

神は不思議そうに少年に問う。

「たぶん無理だと思ったからです。・・・だから、それでお願いします。」

少年は嬉しそうに、

けれど、どこか悲しげに答える。

「分かりました。それでは、これからの人生がんばりなさい。」

少年は本当にうれしそうに眼を閉じる。

いつしか、彼の涙は笑顔に変わっていった。

少年の意識は薄れて行った・・・

これから向かう世界に行くために・・・

1―1　転生

・・・・・・・・。

ここはどこだろう・・・？

善太は気がついた。

周りは自然に囲まれた森だった。

―あぁ、僕は生まれ変わったんだ。

善太は嬉しそうに気持ちを整理する。

どこかに行けば好きなキャラクターに会えると思うと、嬉しくないはずがない。

善太は森の中を探索する。

そして、善太は気付く。

もう自分は病弱でないことに。

生きていた頃の苦しみは、まったくと言っていいほど無かった。

善太は森を探索し続ける。

すると目の前に、スライムが現れた！

「・・・おおぉ！！動いてる！」

驚いた。スライムがいるなんて。

まるでＲＰＧゲームのようだった。

・・・あれ？ということは・・・

『スライムが襲ってきた！！』

ええぇーーーー！！なんで！？

『スライムが現れた。』

なんでゲームみたいな展開に・・・

でも襲ってきたんだからしょうがない！

武器は無いからこの拳で戦おう。

『善太はスライムに攻撃した！』

「はぁー！！」

善太はスライムを殴った。

少しならマシに戦えるだろう。

しかし、考えが甘かった。

『スライムにはあまり効いていないようだ。』

「えぇーー！！」

休む暇もなく・・・

『スライムの攻撃！』

スライムは善太に体当たりした！

「ぐっはっ！？・・・すごく痛いＹＯ。」

ＨＰ的には残り１／４くらいだろう・・・。

「もうだめだ・・・おしまいだ・・・。」

善太は戦意を失った。

転生そうそう死んじゃうのかな・・・。

1―2　出会い

「もうダメだ・・・おしまいだぁ・・・」

『スライムの攻撃！』

「波ーーーー！！！」

突然、叫び声と共に光線がスライムに当たった。

『スライムは破裂したＹＯ』

「おめぇ、大丈夫か？」

この声は・・・

「・・・あなたは？」

「オラは孫悟空だ。」

えっ、あの？

「ところでおめぇ、あぶなかったな～。」

「あ、えーと・・・ありがとうございます。」

正義の味方ってカッコいいなー。

「そんじゃ、オラはこの辺で・・・」

「あの、悟空さんはこんなところでどうしたんですか。」

思い切って尋ねてみる。

「いや、オラにもよく分かんねえけど別の世界に来ちまったようだなー。」

「それじゃ、帰れるまで俺と旅をしませんか？」

「お？オラとでいいのか？」

「はい・・・。」

テッテレー『悟空が仲間になった。』

「・・・ホントにＲＰＧみたいだなぁー。」

1―3　覚醒

「それにしてもどうやって帰るんだ・・・？」

悟空はつぶやく。

「まぁ、ゆっくりがんばりましょうよ。あははは・・・。」

「それもそうだなー。ところでだが、」

「えーと、何でしょう？」

「これから冒険してくのにおめぇの戦闘力はちぃっとばかし低くないか？」

「・・・確かにその通りですね。」

「ということで少しここら辺の怪物たちで稽古っすかぁ！」

経験を積むってことだよね。

ホントにＲＰＧみたい・・・

「そんじゃ、いくぞ！」

「はいっ！」

『柴犬が現れた！』

「なっ・・・・」

「イヌとかもでてくんだなぁー。オラぶったまげたぞ。まぁ、戦ってみてくれ。」

「分かりました。」

『柴犬の攻撃！』

「ワンッ！！」柴犬は噛みついてきた！

「あぶなっ！？」

善太はひらりとかわした。

「おぉ、いい動きだ。」

『善太の攻撃！』

ちょっとできるかなぁ？

まぁ、試しだし。

善太はあの有名な構えをした。

「おっ！？あの構えは・・・！」

「一度やってみたかったんだ。いくぞ、かめはめ波！！」

両手を前に突き出し、光線を発射した。

あれ・・・手から光線出てる・・・出ちゃってますけど！？

「わおーーーん！！」

『柴犬は吹っ飛んだＹＯ』

「おめぇもかめはめ波でるんだな。」

「えっと・・・初めてなんだけど。」

「そっか・・・オラとおんなじだな。ははは。」

『絆が深まった。』

「これで心配することは無くなったから、先進むかー。」

「はい。」

こうして二人は森を抜け、一つの村に辿り着いた。

―この力は一体・・・。

（ステージ１　クリア）

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2700ba/

Blanche espere -白の希望-

2012年1月7日01時47分発行